

第9回 中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会会議録

○ 日 時

平成25年10月31日（木）午後3時～午後5時

○ 場 所

中野市豊田支所大会議室

○ 出席者

【審議会委員】

小島哲也会長、清水正副会長、下川昌平委員、永池隆委員、市川和仁委員、市川大輔委員、小林健一委員、小島佐和子委員、伊藤勇委員、酒井美智子委員、中島武久委員、北原新一委員、柴垣顕郎委員、関うた子委員、古川今朝治委員、湯本一委員

【市】

小嶋教育長、小林教育次長、荻原学校教育課長、杉本学校教育課長補佐、富田主査、渡辺主事補

○ 会議内容

●開 会 (15:00)

清水副会長；それではみなさんどうも御苦労さまでございます。久しぶりでございますが第9回の中野市小学校中学校適正規模審議会を迎えました。始めに会議の成立についてご報告をいたしたいと思っております。今日は定員25名中、15名の委員さんに出席いただいております。あらかじめ欠席が5名、ちょっと遅れておいでになる方1名ということでございます。そんな事で会議の方は成立しておりますので、ただ今から会議を始めたいと思っております。始めに会長のほうから開会のごあいさつを申しあげて、あと引き続いて本日の会議の内容、進め方等について説明を申し上げますので、それをお聞きいただいてそして引き続き座長として進行させていただきます。では会長さんよろしくお祈いします。

小島会長；みなさんこんにちは、座ったままで進行させていただきます。今日、9回目ということで、お手元の資料、会の次第がございますように、会議事項はその他も含めて4つです。副会長さんのごあいさつにもありましたように間が審議会としては開いた感じがします。9月に市内の小中学校の学校の中の様子や他、行事を視察を挟んで今回の審議会になりました。その視察を踏まえて今回本格的な審議に入らなきゃいけないということで、気を引き締めているんですけども、その審議を進めるにあたって、諮問された趣旨と内容について教育長のほうからご説明いただくということで前回の審議会事務局を通して依頼をしたところです。そのことがまず(1)番の会議事項として、「教育委員会への確認事項について」という事でございます。そこから具体的な審議に入ろうと思うのですが、(2)番目の会議事項が「学校視察等のまとめ」

です。これは先ほど言いましたように9月に視察を行いました。この時の記録の写真を何枚かありますので、見ながら皆さんの感想やご意見を改めてお聞きしたいと思います。視察が終わった後、昼食を取りながら話を聞いたのですけども、改めてまとめたいと思います。その後、今後のこの審議会の活動の内容と日程等についてご相談をしたいと思います。そのための資料をこの次第以外に今日準備をいたしました、ちょっと確認をしていただくと、私の名前で今後の進め方についてという(3)番の資料で1枚ものでございます。それからもうすでに丸の穴が開いているホチキス止めの資料、事務局の方で用意していただいた法令等から見た適正規模について、それからもうひとつが北茨城市立小・中学校の適正規模及び適正配置について一答申一という資料がございます。それからもうひとつ、きれいなホワイトの資料、これはこの審議会とは関係がないということですが、湯本委員さんが配布していただいたのですが、これは審議会の終わった後に紹介する余裕があれば、お願いしたいと思います。という訳で今日は盛り沢山ですけれどもよろしくお願いたします。

小島会長； それではよろしいですか、会議に入りたいと思います。まず、教育委員会への確認事項ということで、お願いしたいと思います。

小嶋教育長； 皆さんこんにちは、本当に長い間まだ道半ばでございますが私も会議録をその都度読ませていただいております。今この時期へ来て本当に委員さん方、幅広くしかも非常に深く自分のお考えを述べあって、いろいろ出していただいているということに対して本当に感謝でございます。活発にいろいろ意見が出るということが一番審議会とか検討会では一番大事なことではないかと、途中資料等をもお出しいただいているということが会議録から読み取れます。大変ありがとうございます、熱心にご審議いただいております。本来ならば教育委員会を代表する委員長がここへお邪魔するところであります。委員長にも話してありますが、皆様方から教育長のほうで出てくるようにと、こういうご指名ですので私あえてここへ出させていただいております。よろしくお願いたします。

改めて教育委員会として何を諮問しているのかという確認というような委員の皆さんのご要望と申しますかご指摘でございます。本当に木で鼻をくくったような言い方で大変恐縮ですが、1回目の会議録から読ませていただいて、1回目で色々確認し合った事をここへきて崩すということは大変失礼でございます。そんな事でわかりきったようなことを申しますが、お願いたします。

まず、諮問書であります、昨年9月6日付けで、もう解りきったことですのですべて読み上げるなんてことはしません。諮問事項であります、中野市内の小中学校の適正規模及び適正配置についてということで、なぜこういう諮問をしたのかという理由をそこに付してございます。ご多分に漏れず中野市も大変な少子化でございます、こうした学校の小規模化、少子化、これに対してこういう時代に向けて学校教育のあり方はどうあったらいいのか、というようなことで自由に活発に色々ご審議いただいて答申をいただきたいと、こういうことで昨年度9月に皆様方に諮問申し上げたということでございます。

それと、最近ですが私の方へ教育委員会に確認したい事ということで5点ほどご質問がございました。1点目は行政改革推進協議会との関連、それから市の財政の中でどういう状況になっているかと、3点目、答申後に教育委員会と市がこれをどの様に進めていくのか、それから4点目、どの位先をスパンを見て審議していけばいいのか、5点目、審議会としてどこまで踏み込んだらいいのかと、例えば地域の問題などというふうに事務局のほうから聞きました。

まず、行政改革推進協議会と市の財政の関係でございます。ここにも関わっていらっしゃる委員さんもいらっしゃる訳ですが、ご存じのように財政の方は市庁舎の移転等で、今後、大変なお金がかかるということが公表されております。つきましては、この2点について、切り離してお考えいただければと、当然、具体的に答申を受けた後、難しいことが出てくるわけですが、これは、当然、市の方で私が言うか、教育委員会代表で言うか、色々財政を含めて、どういふ答申を受けるかによってでございますが、色々そのあと至急、財政的な事とか色々考えていただく場面、また市長の判断、こういうものもございまして、切り離してお考えいただければということです。それから3点目に答申を受けた後でございますが、これはもう当然、教育委員会として大事に受け止めさせていただいて、早急に教育委員会の方で素案を作り上げ、また当然ですが市民の皆さまに色々公表してご意見を求めるというようなところもプロセスとして入ってくるんじゃないかというふうに思っております。それからどの位先を見越してというような事とかどこまで踏み込んでという事でございますが、これは正にここの委員の皆さんが非常に正に踏み込んでお考えいただいております、審議会の皆さまのご意見で考えてこのところは深めていただければなあとこんな事を思っております。しっかりお答えになったかどうかわかりませんが、まずこんなところでご理解賜ればとこんなふうに思っておりますが、よろしく願います。

小島会長；ありがとうございます。今のご説明いただいた内容について質問、意見おありでしょうか。

古川委員；古川ですが、教育長、この問題はね、もう早くから明確にやっているんだよ、またここでぶり返すわけだよ、その意図はどういうことか。

小嶋教育長；今、古川委員さんの方から、もう何回も何回もやっている、何をやってんだと、こういう事でございます。私の方から、まあ、ぶり返している、こちらに進行をなさったり色々中心になっておられる先生方がいるもので、私がぶり返している訳ではございませんので、ぜひ、私個人的になってしまうかもしれませんが、早急にひとつ進めていただければありがたいなとこんな思いでございます。

古川委員；先輩から言われている、まだやっているのかとこういうふうに。それについてどういふつもりでやっているのか。

小嶋教育長；今ここで、昨年から始まった話じゃないからこういう話がね、私もよくちょっと古いところも色々お聞きして承知はしてますが、先ほどと繰り返しになります、確かにまどろっこしいと思われている市民の皆さんもいることは事実でございます、耳に入ってきます。ですのでどう思っているかと言われると繰り返しですが早急にひとつ審議を深めていただいて収束の方向でまた皆さんで協力してやっていただければなという思いでございます。

小島会長；会長としてちょっと言葉を挿みますと、別にこの審議会、混乱していてどこへ歩んで行ったらいいか目標を見失っている訳ではなくて、意外とゆっくりペースで審議をしてきたのはいなめないのですが、自然な成り行きで中間報告とりまとめを出しましたので、この時点でもう一度我々に課されている諮問の内容、これを確認したいということをお願いしたものです。ですので今日確認させていただければこの後はスピードアップしてということです。確かに回数を恐らく10回以上になるんですけども、ここまで審議会を真面目にやっているところは他にないだろうかと誇りには思うんですけども、そんな事で委員の方のご意見はひしひしと感じてますので、ぜひ協力していただいて進めたいと思います。他にいかがでしょう。

柴垣委員；私も今の会長の意見と一緒に結構いいペースで、いい深さで議論を進めてきていると思うんですけども、今の教育長の説明があったように、諮問自体は規模と配置という単純極まりないものなんですけど、議論をしていけばしていくほど他の領域との繋がりが切り離せないことが浮かび上がってきた気がするんですね。地域とのつながりの大事さをどう考えるかで適正規模も変わってきますし、今、市の財政はどの位大変かによってどの位の手厚い教育ができるかも変わってくるし、適正規模や適正配置というのは議論していけば議論していくほど他の領域とのかわりが多くて単純に結論が出せないという迷いもあってですね、その辺は皆さんどうお思いかと思うのですが、それで5項目を聞いた意味というのはですね、今後のことが分からないとこの審議会でどこまで掘り下げて議論したらいいか分からないというのが正直なところで、例えば、これらの議論で委員の中から市の財政がどうなっているのかとか一人あたりの教育費が小規模校と大規模校でどう違うのかとか財政に係るような意見が出てですね、その辺の教育も大事だけど財政も大事だという突き合わせみたいなものを今後どの様に扱われるのか、この後もうすぐ教育委員会の中だけの話で決まるのだったら、ある程度その辺も踏み込んで議論をここで盛り込んでおかなければいけないだろうとですね、具体的に地域の意見を聞いたり、地域ごとのすり合わせみたいな作業を今後、あまりないようでしたらこの審議会でこういった地域の意見を聞くとか、十分掘り下げなければいけないわけですし、今後のことが分からないと正直、あと1年も切った残りの少ない時間の中でどこまで掘り下げていった議論をしていかなければならないのか、それで今日、わざわざ教育長に来ていただいた経緯になると思うのですけれど。例えば一番直近な例で山ノ内町が今、統廃合の議論を進めているんですね、それも今年の春に2年かけた、ここと同じような審議会があって、それは小学校のあり方懇というのがあって、それで答申が出たんですけどもその後、少し迷走していて、行政の提案が議会で否決されたり、また別の審議会がおきる話が提案されたりという、先が定まらなくてきつと、その話を聞くにつけても心配は増えていき、今後、例えば財政の問題なり大事な地域の問題なりを教育委員会はどんなふうに進んでいく予定なのかが分からないと、この審議会でどこまで踏み込まなければいけないか、ちょっと決めかねると、それでそういう質問があったんだと思うのですが。今後のわかる範囲で出来る限り説明を詳しく説明いただければと思います。

小嶋教育長；今、柴垣委員さんから2点ほどご質問があったかと思いますが、先に順不同ですが地域の声と

いうその部分であります、地域へ出向いて行ってどの地区でどの範囲で何回ということは今この時点では教育委員会でもきっちり数字で言うことはできません。ただ、委員さん方もそれぞれ地域から柴垣委員さんも色々地域で声を聞いていると思います、私ども教育委員会としても当然、PTAのみなさん、学校の声、地域でどんなような声があがっているかとか、そんなようなことを当然聞く機会、あるいは日頃、耳を立てていろんな声を聞いていくという姿勢は当然持っていかなければいけないと思っております。ですので、委員さん方もぜひ地域の声を色々聞かれていると思いますが、そういうのを出来るだけ出していただければ教育委員会も当然そのまた違った方向で意見をまた色々声を聞いていきたいと、こんなふうに思っております。それから、財政のことではありますが先ほど申しましたように、切り離してということをする訳ですがというのは、ここまで私言っているのかどうか、まったくのたとえ話であります。たとえ話ですので、校舎をどうするか、新たに再利用するのかあるいは新しくするか色々な意見でこれから出てくると思うのですが、それによってまた財政の関係をお願いしていくこと、どの位のスパンでやっていくかというようなことも教育委員会として審議してくる大事な項目になってくると思います。現状の財政については、私、行政畑でなくてあまり詳しくないので、もし、あれですか会長さん、財政の話になっているのですが、私は切り離してというふうに思っているのですが、そこら深めないで、と言っている訳ですが、では、柴垣委員さん申し訳ないですけど切り離してという事でいいですか。

柴垣委員；それはさっきの説明でその方向でいいと思うのですが例えば財政に関してとか、地域の声に対してまた別の審議会を作るようなことも考えているのかどうか。

小嶋教育長；すべて私が結論を出して決断している訳ではありませんが、教育委員会の主体性、これを大事にして、今、教育委員さん方いますから、まずそれを第一に考えてやっていきたいと、こういう新たに何をやりたいどうのこうのなんていうことは今の時点では私申しません。

柴垣委員；今回の諮問は小学校の統廃合に関してかなり限定的な諮問だと思うんですね。適正規模、配置はどうしたらいいかと、たぶん小学校の統廃合に関して考慮すべき要件というのは規模と配置だけではないですよ、財政のこともあれば地域との繋がりもあり地域社会の意味まで含めて掘り下げていけばきりがないところまである。ただ、この審議会は規模と配置について答申しろということで、その他の要因は全て教育委員会が内部で考えるということですか。

小嶋教育長；他の要因というのは例えば大きく3つに、切り口というのですかね考えていく時に地域の声、それから学校関係の声、学校、PTA、それから3つ目は今言われた他の要因ですかね、今、具体的にこれこれと私挙げられませんが、当然出てくると思うんですよ。会議録を見ると3つの切り口を冒頭言われてたような記憶があるんですが。

柴垣委員；それは、小学校の校長先生の委員が言われてたことで、議論の途中の段階でこの問題を考える切り口は3つあるだろうと、地域にとっての学校の意味と、もうひとつはPTAにとっての意味と、教育内容に関してその観点からどうかと、その3つの観点を出されたと思うんですね。その3つの観点が大事だろうということは、これまでのこの審議会の議論で大体皆の共通了解になっているんじゃないかと思うんです。それとかなり諮問の内容が、規模と配置をまず考え

ろという形になっていてですね、規模と配置を考えていくわけですけど、それでも冒頭に述べたように考えていけば他の領域との繋がりはどうも出てくると、なかなか規模と配置だけ切り離して考えるわけにはいかないと、さりとてこの審議会でも無限に議論する時間も余裕があるわけではないのでどこかでこの審議会が責務を果たせるような答申を出したいと、そう思った時に答申を出す範囲を明確にしていきたいと、それはたぶん今後、教育委員会がこの答申を受けてどのように進めるかにも深く関わってくるだろう、先ほど挙げた山ノ内町の例をみても正にそうであると。そうすると規模と配置以外、例えば地域社会にとって学校というのはどういう意味を持つとかかですね、それはきっと大事な論点ではないかと思うんですね、それをどういうふうに考察していくか、どうも明確ではないという気がするんですね。教育委員会の主体性で決めていくというのはとても大事な事で、是非そう願いたいと思うのですが、それは抽象的にしか聞こえない気がするんです。

小嶋教育長；今、柴垣委員さんが言われたことで、ちょっと私ずるいのかもかもしれません。やはり元へ戻って原点ぽいような話になれば、やはり子どもにとって学校で学んだことが将来、社会人となっていく時にどういうものを少しでも子どもたちに学び取って成長していくかと、こういうようなところを会議録でも委員さん方、非常によくそこらあたりご審議いただいていることがうかがえるものでね、子どもにとってじゃあこういう状態が良いんだというようなところをよりいい状態、ベターな方向へそこらあたり大事な点になるのかなというように思っております。柴垣委員さんのお考えも会議録で読ませていただいているもので十分解ります。

柴垣委員；確かにずれているところがあってですね、子どもにとって何がいいかということ考えた時にですね、例えば最初の会議で小学校の校長先生が述べられたのですが、地域社会が小学校をどう支えていくかということがとても大事だと、それから、例えば通学路は第二の学校という言葉があってですね、地域社会の中でどう子どもが育つかというのが学力あるいは子どもの生きていく力全般についても大事な意味をもつという観点もあると、そう考えると教育長の言われた子どもの成長という観点にした場合に尚更、適正規模・配置だけではない領域に議論が広がってくる気がするんですね。

小嶋教育長；その点について、柴垣委員さんのお考えで、ここでも当然述べていただいて、もっと極論すれば、数字じゃないよということを意味しているのかと思いますが、なぜかという、その理由づけとか、そういうことが考え方、そこらを大事にまず考えなきゃいけないということを言われていると思いますが。

柴垣委員；私の考えを言っている訳ではなくて、教育委員会が今後どのような議論をしていくプランをもっているのかというのを聞いているんですけれども。

小嶋教育長；当然、答申の形、どういう形で出てくるか、それを受けてですが、やはり一番原点になるのは子ども達がどういう姿で、教育環境であれば一番望ましいか、将来社会人になった時、付けるべき力が多少なりともこういう部分でベターじゃないかというその辺のところをまず大事になってくるかだと思います。これはまあ私個人かもしれませんが、当然そういう議論になってくるかだと思います。

小林委員；小林です。あっちこっち話がぶれてしまうかもしれませんが、今の行政改革推進協議会の話とは分けてという教育長のお話を聞きまして、私かねてから思ったのは、まず、この学校の運営にあたってお金が絡むのはもちろん必須なんですけども、それ以前に先ほど言われました子ども達のことを考えてということであれば、やはり行政、お金のことは抜きにしてというのは例えばこの中野市の小中学校が現状のまま少人数であっても維持し、このままの教育環境で進めていこうという答申が出た場合ですね、これはいくら中野市がお金をかけても子ども達をこの環境で育てまじょうと、例えば何億借金しようが子ども達のためにこれだけお金をかけてもやっていきましょう、それが子ども達の将来になるのであればやりまじょうという意気込みを持った大人たちがいてしかりかなと思う訳です。というのは今日、ちょっといらっしやいませんけども、中野市は昔いろんな施設に多大なお金をかけてきたし、それを見に中野市に注目して来られた県外の方もおられたと、そういう活気のある中野市であったのに、今はちょっとお金が先にあってどうも目標が達成できていないというか、そのような環境でこれは子ども達の学校の関係も、そんなようまずお金、財政ありきで審議の進む状況があつたりして、やはり例えば将来子ども達が成長して中野市はいいところだったなと、もっと中野市を良くしようという気合いが生まれる、子ども達がいっぱい生まれれば、いくら今投資しても、ちょっとお金に戻ってしまいますけども、中野市に還元してくれると思うんですね。そういう子ども達の環境を、そういう子ども達を育てるためには、どうすればいいかというところで、やはりお金とは切り離して考えていけばという先ほどの教育長のお話だったかなと思いますけども。私も今、お話を聞きましてそれを同感しております。まとまりませんが以上です。

北原委員；北原です。今、小林さんの方からあるいは教育長の方から、お金とは別にというのはですけども、日本中どこでもそうですけども、最終的には教育の質の維持というか、そういったことが非常に、どうしたらいいかということで、一方ではやはり少子化ということであつて、やはり少子化に伴って今の国の予算もですね、25年度予算というのは全体には増額されているんですけども、少子化に伴って先生方がどんどん減っちゃう、具体的にいいますと、687億円ほど今年度予算というのは国庫負担が減らされておりますし、その他の教育費というのは83億円ほど実はいろんな学校で増えているんですね。ですからこれは、最終的にはお金なしで教育の質を維持するってことは土台無理ですし、じゃあ中野市がそれだけ今後とも負担できるかというやはり背に腹は変えられない、要するに皆さんの家庭でもそうですけども、親父の給料が半減しちゃったと、じゃあ子どもを塾へ行こうかと言ったけど、じゃあ止めようかと、こういう話になるわけです。ですからやはり中野市も決して裕福じゃなくて、長野県でもやっぱり真ん中位のレベルなんですね、財政的には、日本全国でもやはり真ん中以下位で夕張ほどにはなりませんけれども、そういう事でお金があつてその中で教育の質をどうやったら維持していけるかということが非常に大事なんですね。教育の質を維持するためにはどうするかっていうと、結局、やっぱり統合化だとかそういったことしか、常識で考えて、日本全国で考えていわれるのは統合化によって、この前も私申し上げましたけども、建屋の維持する、冷暖房もそうですしいろんな費用を固定費、いわゆる教育に直接かかわるお金じゃなくて、やはり校舎を維持する

ためにあるいは先生を維持するためのお金をずいぶんかかっちゃたり、じゃあ肝心の生徒の質の、教育の質の維持ってのはどうなっているかというところ、どんどん結果的に減っちゃっているんですね。中野市の教育費も国庫負担は先生の教育費、先生が少子化に伴って先生の教育費、人件費は減らされているんですね。ところがそういった国の方はちょっと増えているんですが、それ以外補てんできないんで、結果的には地方、日本全国そうですけども毎年毎年減らされてきてるわけです。ですから子ども達にとって学校教育の質を維持するためにどうしたらいいのかという、やっぱりお金なしではどうしようもない。ですからこれをどうやって教育の質を維持するかということそれはやはり、今後展開するにあたっては、説得する。一般の父兄に説得するためどうするかということ、確かに小林さんが言われたように地域は大事です、学校は大事です、子ども達がこの場所で何とか例え10人になっても1人になっても学校を維持させてくれというのは本音かもしれませんが、やっぱりそれでは生徒の、教育の質は維持できないだろう、あるいはそういった懸念があるんだという事で、教育長さんが言われましたように最終的には市民を説得する一番大事なことはやっぱり財政的にこれ以上教育費、生徒に対してお金をかけられない、ということがやっぱり切り口になるのではないかなど。だったらどうやって、みんな我慢という言い方はおかしいですけど、皆さんのご意見はごもっともですけども、やはりどうしても人数がどんどん減っている中では統合しかありませんね、皆さんに投げるにしてもそういうことになるんじゃないかという気がします。教育長の分けてというお話ですけど最終的にはそこに行っちゃうんじゃないか、今、小林さんのようなご意見もありますけどね、説得にはそういうことになってしまうのではなかろうかというふうに考えます。

湯本(一)委員；最初に古川委員さんから申されたとおり、今さらというようなご発言がありましたけども、確かに一番最初は北部公民館、中央公民館、西部公民館でやったのが確か6年7年ぐらい前に教育委員会が募集しているいろいろ2回ぐらいですか、やった経過がありまして、それからポーンと空いていきなりここへ来た訳でございます。今、柴垣さんのご意見それから小林さんのご意見を拝聴してますと、何か最初に教育長が申された、予算の方も重点に考えて、金がなければ教育できないというような事であったふうに私は思っておるわけでございますが。教育のあれは私の記憶が定かめませんが、明治6年に学制がありまして、この時には各村々に学校を作る金がなくて、組合立のような学校を作って、私の地元の科野でも高等学校というような学校を作りまして民間の家を寄付してもらってそこへ確か倭も一部入ったような記憶があるわけでございます。金というものを考えるんじゃなくてこの子どもというものをどういうふうにやっていくのかということを考えて本当に考えていかなければならないということで、もう既に何回もこの教育委員会にあれしてありますが、現在52名程でもって一番少ないのが倭ですか、11人という小学校の人数でございます。このような状況でどのように教育をするかという、金じゃないと思うんです、この子どもたち、ひと村でもって7人や8人でもって本当に子ども達が教育ができるのか、教育を学ばせるということじゃなくて自分で学ぶというようなことができるのかどうか、私はうちの孫を見てて本当に心配でございます。今、私が一番こういうふうにしてもらいたいということは、この配っていただいた資料にもありますけども、35人学

級というのが大前提であるわけです、その35人学級をどのように持っていくかということが一番の私はこの委員会に課せられた使命ではないかというふうに私は個人的には思います。そこで今お聞きしたいのは、先ほど柴垣さんがおっしゃいましたけども、この問題が結論が出た時にでは教育委員会なり市長さんが何年先に、この答申にあったような回答を出せるのか、先ほどもお話がありましたが、山ノ内町がもう既に3年もぐじぐじぐじぐじやっております。このようなことをやっておりますと、せつかく審議会でもって時間も経費も掛けながらやってもまた、あっちから反対、こっちから反対ということでは何の為の審議会かわかりません。そのようなことで今お願いしたい事は、教育委員会という教育委員さんはこのような問題をどのようにお考えでどのような方向にもっていきたいのかということ、もしできればお聞きしたいです。

それから2点目ですが、今のこの、私は合併とか今の統合を前提にしておりますので、そのような場合には先生の担任は減ります。例えば科野・倭から長丘・永田のこの小学校をどのようにするかということだけで今の先生は既に4分の1しかいない訳ですね、この場合本当にこのような事で教員組合、また教職員組合がすんなり「うん」と言うのだろうかというのが一番私の心配しているところです。子ども中心で考えなければならない今の教育を、予算だあれだこれだと殻を付けて議論をしてしまったのではどうにもならないと思う訳でございますが、この辺、今の教育委員会又教育長の間でこのようなお話しがあったのか、どのようなお話しをもっと進めていくのかということ、をまずお聞きしたい訳でございます。

小嶋教育長；今、湯本委員さんから2点お話がございました、前後します、じゃあ2点目の方から先生の数が大変減って、しかも教職員組合の方の関係が何かあるんじゃないかと、こういう話でございます。教職員組合につきましては、私もここでどうのこうのと言うと他の組織のことですのでちょっと言葉を控えさせていただきたいのです。先生の数が少ない、余るといことは、これは正に県費、県の費用で雇用している先生方でありますので県の教育委員会がまた考えることだと思います、再配置とか色々長野県下全体を見ての話になりますので、それと1点目の方の教育委員会でどのようなことが話し合われているのかということでございますが、学習会、教育委員会の中で学習会と称しまして色々中野市の今の学校の現状、どういような効果があがっているか、また何に力点を置いて小学校で教育をしていくか、数字的なものも当然話題になります、そのような事とか。それから今、審議会でこういうことをやっていますということは当然会議録がホームページで公開していますので委員の皆さんは見ております。また、特に委員長さんになれば色々全体的な今後のことがありますので、今、こういうことが審議会で議されているけども私どももちゃんと心してやっていかなければならないとか、本当に毎回学習会と称するものでやっておりますので、ちょっと細かい事は私、今、手元になくて恐縮ですが、その都度時間を取ってやっております。ということですが。

小島会長；よろしいですか、実は湯本さんのご質問、それに対するやり取り、これも他の委員さんとのやり取りも含めて、もう正に我々審議会の審議すべき議論の中にも踏み込んでいる大事なやり取りがここで行われておるんですけども、毎回教育長さんに参加していただいてやっていくわけ

にいけませんので、今日まだご発言のない方から、直に教育委員会の代表として教育長さんに確認したいことがあればぜひということをお願いしたいと思います。

清水副会長；今のお話、皆さんから出していただき、聞いていただいてこの審議会とそれから教育委員会この関係においてこの答申が出たらその先どうするんだと、教育の課題があるしどうするんだと、こういうことで質問が出ていたかと思うんですけども。これは答申が出たら、来年出ますよね、答申が出る、そうすると教育委員会の方はそれを精査するというか見て教育委員会の立場からすぐ具体的に、審議会は具体的にじゃないですが、教育委員会は具体的にというのはどの学校とどの学校を、例えば小学校11校あるのを6、7校位にするなんて答申が出たとすると、ということは減るわけですからそのことは適正規模にするためにそのところが減るわけですから、その適正規模にするためには具体的には統合するとか学区を見直すとかいう具体的な作業に入るんじゃないですか、それをやらなきゃ前に進まないですから。私どものほうはどの学校とどの学校と一緒にすよといったそういうことはそこまでは踏み込まないですけど、教育委員会はそれを満たす方へ入っていく。その裏付けにはちゃんと今まで我々が教育の本質から掘り起こしたものがあるし、まだこれから先に色々地域との関係や、そういうようなもの全部審議したうえで答申していくわけですから、その裏付けを当審議会で持っている訳ですから、教育委員会はすぐ具体的に入っていくんじゃないですか、そのこのところ。それは来年から始まり、再来年でそのことを決着付いて、あと市の方へバトンタッチして行くとかね。この辺のところを進め方はそういうふうになるじゃないかなと思いますが、これはそこまで言えないのですかね、答申を受けたら。

湯本(一)委員；ちょっと待って下さい、清水副会長に聞いているんじゃないんです、我々は教育長に聞いているんです。教育長にここに法令から見た適正規模というのがここに書いてある訳です。これに基づいて今はまだ結論は出ませんけれども、出ませんけれども私はこれに基づいてどのように持っていくか、子どものために持っていくかということをお聞きしている。副会長に聞いているんじゃないです。

清水副会長；分かりました、私言いすぎちゃったかな。私は今聞いていてね道筋や関係から見ていけばそういうふうになっていくかなという、進行の方の立場から申し上げましたが。

小島会長；教育長さんいかがですか、確かに先ほど湯本委員のご質問は、教育委員会では答申の後、何年かけて実効的な対応される予定ですかという質問はありました。お答えできる範囲で是非。

小嶋教育長；湯本委員さんのお話を大事にまた受け止めさせていただきますが、答申の後ということをお聞きしている委員さん方もきっと色々お考えになってくださっているんだと思いますが、大変申し訳ないですが、数字で例えば何年間後には、何年後にはということをお聞きしたいんですけども、早急にということしか言えないものから申し訳ないです。それと、今、今日の資料の法令のところをおっしゃいました。これは国で文科省で標準ということをお聞きしたいと思いますが、これはまあ全国色々な小中学校が地域にございますので、大きいところ小さいところも本当に色々ですので、あくまでも目安、これが標準というこの数字が適正かどうかというのとはまた別問題だと私は思っております。あくまでも目安であるというふうな理解でおりますが。

でも大事な一つの基準になっていると思います。

小島会長；湯本委員、よろしいでしょうか。その他にいかがでしょうか。

伊藤委員；伊藤ですがよろしく申し上げます。先ほどから話を聞いていて、皆さんすごく一生懸命にこの答申を価値あるものにしたいと思いますし、恐らく一番心配なのは近隣の市町村の現状の進展のことを考えた時にじゃあこの答申というのはどういう方向性で私たちが出して行ったらいいんだろうか。例えばすごく大まかなものを出した時に教育委員会がその答申を受けてこれからやるという話になるとすごく先が長くなっちゃうんじゃないか、じゃああんまり私たちが細かくまで申し上げていいんだろうか、今度逆に私どもも遠慮みたいなものが非常にありますし、そうすると答申のほうってのは一体どういうことなのかなっていうのを皆が今、探しあぐねている状況、というふうに私は理解しておったのですけれども。その中で私なんかそう思った時に一体何が欲しいのかなと思いました時、そうすると例えば、今度新しく市長さんが変わられて今、中野市の方向としてこの適正規模と配置について先ほどから北原委員さんおっしゃっていただきましたけど、やはり、どこまでも無限にお金をかけていいという教育はあり得ないと思うんですね。理想としてどこまでも子ども達のためにやりたいという、教育に対する大人の考えは全員が思っていることだと思いますけれども、やれることとやれないことがある、じゃあ、やれることの中で最大が一番いい結果を出していかなければならない。でも、じゃあ今、中野市ってどこまでやっていいんだろうか、市長さんはどこまでやっていいのって私たちに方向性を今、そういえば見せてくれていたのかなあって言われた時に、さて、どうなんだろうということが今、ちょっと私自身が見つけかねているような感じです。そうすると私自身が今、何をどこまで理想としてこの答申という適正というものに対する考え方をした時に、先ほど小林委員がおっしゃってくださいましたけども、もし許されるのであればお金は無限にかけて何とか現状の中で今、この地域の中の小学校が必要とされている以上それを残していくというような方向性が許されるのであればそれはやはり今の保護者の地域のニーズとしては一番あるのだと思うのですけども。それすら今、許されない現状がいくつかの条件の中で生まれおるんじゃないかと、その時にさてじゃあ私たちはこれからいったいどれ位の大まかな縛りというのでしょうか、そういう方向性としては中野市としては今、教育委員会と市長さんと大体こんな方向性だけは見ているよ。例えば簡単に言ってしまうと、お金はかけようじゃないかっていう教育に対する適正配置を考えてくださいというのでいくのか、それともない袖は振れないから工夫でやっていく適正配置というのを考えてくれないかということであったりとか、そういう何というのでしょうか、具体的なこれから方向性があれば全然別だと思ってしまうのですけども、その中のおおよそのくくりというものの方向性が、もし今、お聞かせいただけるようなものがあるのであれば、そういうものを聴かせておいていただいた中で私たちはこれからお話をさせていただく時のとても見る方向が全員が同じ方向を見てお話ができるのではないだろうかというようなことを思うのですけど、その辺のところはいかがなものでしょうか。

小嶋教育長；ありがとうございました。まず、伊藤委員さんご存じのように教育委員会というのは全く独立したものでございますので、市長さんがこの審議会に対して何を求めているとか、こうして欲

しいとかってことは一切ございません。あくまでも審議会の答申を受け、教育委員会で練らせていただいで素案を出していく時に当然説明は申し上げます。ただ、市長さんは教育に対しては非常に関心を持たれ、大事に考えておられることはもうご存知かと思います。それから教育委員会として正に一番初めの話になりますが、こういうものを求めているということをお話にくい訳なんです。と申しますのは、いわゆる教育委員会の思いどおりに引っ張って行くじゃないか、結論ありきじゃないか、極論をすればね。そういうことのないように繰り返しになりますが審議会で方向性、今日の資料をちょっと見させていただくと正に方向性をご審議なさって今後こういうふうにということを、方向性を出していただく資料なのかなあと私は理解しておりますので、大変申し訳ないですが、そんな事でご理解いただければと思います。

伊藤委員；逆にそういうふうにも明確に教えていただくと私どもとしても今度逆に、じゃあそこまで私どもも踏み込んだ形での意見としてお伝えさせていただいてもよろしいという逆に大変ありがたいご意見、お考え、方向性を教えていただけたんじゃないだろうかというふうにも思いますので、今の形で大変ありがたかったと思います。

市川(大)委員；市川と申します。科野小学校のPTA代表で参加させていただいています。中野市立の小学校及び中学校の適正規模等審議会という名前であれば私は全ての小学校、中学校からPTA代表一人ひとり、一人必ず出るべきだと思うのですが、PTAが4人しかいないという理由をお聞きしたいのですが、お願いします。

事務局；それでは、教育次長の小林ですが、私の方からこの審議会を立ち上げた時の状況についてご説明申し上げます。審議会に色々な方が参加いただいて議論をしていただくのが一番ベストでございますが審議会の人数をただただ増やすわけにもいきませんので、限られた人数の中でそれぞれ割り振りをさせていただいて、それぞれの関係する団体母体等から出ていただくようお願いをしたということで、PTAからは4名の方をお願いしたという経過でございますのでご理解をよろしくをお願いします。

市川(大)委員；では北部4小学校からなぜ限定されているのかというのは理由があるのでしょうか。

小島会長；会長は承知していないとかその理由はよくわからないのですが。

事務局；今回、先ほど申し上げましたようにそれぞれの関係機関、団体等からの推薦をいただいておりますので、今回の場合はPTAに関してはPTA連合会の方へ推薦をお願いして出させていただいたという理解でございます。

小島会長；連合会の推薦。

柴垣委員；せっかく教育長に来ていただいたので、その5項目の質問の教育委員会の見解を確認したいのですが、財政とか市の計画とはとりあえず切り離して議論してもらいたいと、それから地域社会のつながりとか地域社会のあり方についての議論はこの審議会の見解で掘り下げた議論をすればいいと、その2つと了解して構わないですか。

小島会長；会長ももちろんそうだろうと了解してますし、教育長も先ほどそういうふうにご発言されたかと理解してます。よろしいですね。

柴垣委員；あとは先ほど湯本さんの認識に誤解があつてちょっと付け足しておきますと、私は財政のこと

をここで議論しようと言ったのではなくて財政の絡みが出てくることもあるので、それはどうなっているのかを聞きたいということをやっただけで、湯本さんのように財政と切り離してまず教育の観点から先行して議論することが大切だろうということは同じように考えます。それはちょっと誤解があったようなので訂正しておきます。

小島会長；それでは、会議事項(1)、教育長に来ていただいたの確認ということについては以上でとりあえず終わりにしたいと思います。ありがとうございました。会長としても一言申し上げますと、今日、教育長のほうから説明いただいた内容については当然のことながら子ども達の将来、教育のあり方という非常に抽象的な論議と切り離してこの審議会で話すわけにいかないということと、もうひとつは正に諮問の書類の中に冒頭書かれてあったように、少子化の中でという現実があります、それから財政と切り離してというご説明ももちろんいただきましたけれども、非常に切迫した財政状況というのがどこにでもあるというのはもうこれは皆さん承知のことなので、まるっきりバラ色の教育環境を整えるための議論をここでやるということではなくて、現実を踏まえうえて理想を叩き台にして具体的な案を示していくという姿勢で私、臨みたいと思っております。ありがとうございました。そうしたら、教育長さんはこれで退席していただいて。

小嶋教育長；どうも皆さんありがとうございました、またなにぶんお願いします。ありがとうございました。

(小嶋教育長 退席)

小島会長；そうしましたら、続いて2番目の事項という事で学校視察等のまとめ、まず、ちょっと熱が入りましたので、前回の視察の様子を、残念、私のポケットカメラで撮った写真なのでそれほど鮮明な立派な写真ではありませんが、ここへ行ったよねということで中野小とそれから倭小の視察の様子を二十数枚ありますのでちょっと思い起こしていただいて、それで視察等のまとめという事で感想、意見をお聞きしたいと思います。順番を整理してという余裕がなかったので確か中野小へ学校の中へ入ってから私がシャッターを押した写真から見ていただきます。

(プロジェクターで視察状況の写真を確認)

中野小の2年1組の廊下の様子です。授業をされている中へずけずけとというか自由に校長先生の案内でお邪魔しました、中で授業をやっている様子が分かると思います。

廊下の掲示物とかを懐かしくご覧になっている元先生もいらっしゃいますし、親としても経験された方もいらっしゃると思います。

こんなふうに中野小と倭小の2校を午前中をかけて訪問したのは当然のことながら大きな学校と小さな学校ということで大規模と小規模を見せていただくということで、これは中野小のひとつクラスの雰囲気です。このクラスで児童の数が何人いたかちょっと私メモをもってこなかったんですが、こういう状況です。この校舎の案内図を見てもわかるとおり各学年4クラスで

したか、6年生は5クラス。

ここから倭小でしたか、やはり教室の中の机の数が明らかに少ない、子どもと子どもの距離も、もちろんこれが中々安心して教室の中でのんびり生活できるという雰囲気を私は感じるんですけども、先生も一人ひとりのお子さんの目を見て顔を見て対応されているという様子がわかりました。

これはですね、実は私、この視察の後の大学の授業でこういう教室の様子を学生にちょっと土産話でしたんですけども、倭小の子ども達の当番が、一クラス全員がいつぺんに誰それさんという事でちゃんと指示できて、大規模な学校ではその当番でさえも週に1回来るか来ないかというような教育環境。それも教育環境というのでしょうか、全然違いがあるなということを感じたのでこの写真を撮りました。

最後に倭小で音楽室にお邪魔しました。入口に靴がこんなふうにならべられていたので、何人なのか写真にとっておけばわかるだろうと思って、大きな靴は先生の靴だったように思いますが、これだけの人数ってことです。

小島会長；9月の視察は学校へ直接うかがった視察だけでなく、自由に参加して下さいと言う事で中学校の学校祭、それから小中の運動会もご案内差し上げたところです。それらも含めて、これからおよそ15分程かけられるかなと思いますが、この学校視察についてちょっとご意見、ご感想を聞かせていただければと思います。

古川委員；大規模校だろうが小規模校だろうが、生徒の目の輝きは全然変わらないんだよ。ここにこれからの中野市の教育の原点があると、こう見ている。

湯本(一)委員；私は勉強の方はあまり見ていなかったのですが、ちょうど夏休み明けで夏休みの宿題をずうっと中野小学校、倭小学校を見てきました。一番感心したのは新潟から海水をペットボトルへ持って来て、それを塩にして塩を取ったという記録がありました。それから今、中野小学校では壁にずうっと貼ってあったんですが、あれと思うような、我々のたまげるような自由研究をやっておりました。というのは2、3あるんですが、一番感心したのは、どこから澱粉がとれるかというようなのと、花でもって染めた、何が染まるかというようなことがありました。それから倭小学校でも一点ありましたがペットボトルで虫を作っていました、それから中野小学校ではペットボトルで機関車を作っていました。これはすごいなというようなことで、この発想はどこから出るのだろうか、先生が教えた訳でもないだろうと思うし、子どもがやったのかな、親が指導したのかなということでもって本当に感心して私は見ておりました。

関委員；忘れるといけないので、当日書きました。感想なのでそういったつもりで聞いてください。

小規模小学校の実情の一端をうかがい知ることができました。一番印象的だったのは静かさです。400人位を想定に作られている学校に52名というのはあまりに不自然でした。子ども達は成長盛りだから体から熱量を発散していると思うのですが、それらが周囲のコンクリートの壁に吸い込まれてしまいそうでした。今まで小規模校ならではの事情等自分なりに考えたつもりでしたが、しかしこの静けさは私の予想外、予想できないことでした。

小林委員；小規模校の親としてやはり大規模校の活気溢れる姿は非常にうらやましく思いました。かといって私の学校をそれを危惧している訳ではないんですけれども、低学年の方は少人数でも結構活気があるんですが、高学年になるにつれて非常に先ほど言われたみたいに、おっしゃられた静けさを私も感じます、非常に遠慮しているような状況、お客さんが来ると対応できないというか、ちょっと慣れないというか、大規模の子ども達にないこの遠慮が非常に多く見られて、ここは子どもの本領発揮できていないなという気はしました。

北原委員；大規模校で拝見しますと、最近非常にハンディキャップをもった生徒が増えているということで、いろんな意味のハンディキャップ、そういうことに対するケアっていうのはしっかりやれるな。これはやっぱり大規模校でないとなかなかできないし、倭にも当然おられるのかもしれませんが、なかなか難しいのかな。それからどのみち、やはり将来中学校にあるいは大学とか一般社会へ出るんですけども、大規模校のワーワーキャーキャーというああいう中で育った子がそういう中に突然入ると、やっぱりなんか気遅れしちゃうんじゃないかと。先ほど関さんがおっしゃったように静かな環境の中におられて急に一般社会の色々な中の社会、混沌とした社会の中に放り込まれた場合ですね、かなりやっぱり色々な意味で気遅れするのではなからうかというような危惧をみます。たまたま事務局の方で両方を見るとこれはちょっと大変だなという感想をもっておられましたけれども、私もどちらかというとなんな感じを印象として持ちました。

中島委員；私も学校は分校という小さいところを出たんですけど、2点感じたんですけど。やはり倭小学校は時間の流れが静かで落ち着いた流れでもっていつているなと思えました。だから子ども達の教育環境としては非常に恵まれているんじゃないかなと私は印象を持ちました。というのは少人数ですので当然先生方一人ひとり目配りもできますし、ただし人数が少ないとですね、人との交流に限られる、あるいは切磋琢磨することがないということがありますけども、色々展示されているのを見ますと独創的な事とかそういうことを展示されておましてですね。やっぱり先生方のよく目がいきとどいていて、小規模校は小規模校のいいところがあるんだなっていう感じがしました。ただ、先ほど言われましたように目の輝きだとか、態度だとか、顔の引き締まり具合とかそういうのは大規模校も小規模校も中野と倭を比べてもそう大きな差はないんじゃないかというような印象を持ちました。

酒井委員；こんなにも違うのかというのが大きな感想だったんですけども、それこそ大規模校ならではの友達からの刺激は大変あって、子ども達はそれこそ個性を出しつつもお互いを認めながら自分を確立していく生活を送っていくんだなあっていうふうに感じたし、小規模校は先生達も一人ひとりよく見える、その中で自分を大事にしてもらいながら自分を発揮できる環境にいるんだなあっていうのを感じたし、良い悪いという適正か適正ではないかっていうと、さあどっちかっていうふうにはならないんですけども。それこそそこにおられる先生方がその人数にあった教育環境を考えながら子ども達と接してらっしゃるという工夫もうかがわれるし、両方見させていただいて、これからじゃあ私たちはやっぱりどういうふうを考えるのかなって改めてまた感じたところですけども、それぞれの良さ、それぞれの工夫を感じてきました。

清水副会長；私も見せていただいたので自分の感想を申し上げたいと思います。適正規模との関係で私は見ておりました。さっきの写真の中で倭小の音楽の、靴を写してくださったのがありましたね、7人でしたっけ。あの授業を見た時に7人の子どものうちの6人は大体同じようなレベルで吹けていた、1人の子だけちょっとうまくいかない、そうするとずっと6人の子どもに先生はやってると、そしてうまくいかない一人の子どもの所へ行って指導されていた。非常に明快で、あれであの子ができるようになれば、クラス全員が出来るようになると。これは非常に少ない少人数の授業を見せていただきましたが、少人数の授業に、十人以下ぐらいの少ない人数になってくるとああいう形の授業というのがあちこちで見られますね。そんなところをひとつ見て取れました。ふたつ目は今度は中野小学校の、さっきあの習字を版書に貼ってあった非常にきれいな版書というか先生の書と資料を展示してあったクラスの授業がありましたね、あの授業を見て、あの授業ともうひとつ他のクラスの授業のと同じ学年のクラスのところでありましたけれども、その二つをこう見た時、ああ、これは学年であの先生は授業をする前に良く授業研究をされていたなど、そしてそれのところにプラス自分の個性を入れて授業をされている、そんな姿がああ何か私、非常に新鮮ですごい、すごいといいますかね研究されて準備されてそしてやっておられるそんな所を見せてもらった、やっぱり複数学級あるとそういうことができるわけですね、単級の場合の良さはさっき言ったみたいなの、そんなようなこともこれから私たちが審議していく中で話題にして詰めていってみたいと思う内容でございました。

小島会長；ありがとうございます。1ヶ月以上前になりますかね、あつという間に時間が経っちゃうので思い出を話していただいたり、それから感想を取っていただいたりして思い出しましたけれども、いずれにしても現場の学校をこうやって見せていただく中で、我々の審議会の活動の趣旨を忘れずに生かしていかなければいけない訳ですが、学校の現場だけでは到底我々に課された課題に答えられないっていうのを私会長としては感じております、それらも含めて次3番目の今後の進め方についてという議題を用意いたしましたけれども、我々が今日、教育長からもお話をいただき、皆さんからも結構意見を、貴重な意見がまた出ましたけれども今後どうこの審議会を進めていくかという事を私の案という事で用意してきましたので、今日、資料に基づいて提案させていただきたいと思います。これは副会長さんとも実は意見を交換して、この視察の9月の時からまあしょっちゅう顔を合わせてという訳ではありませんけれども、何度か意見をいただきながら私の責任でまとめたものです。それをちょっと説明させていただいて、こんなふうに進めていければいいかなっていうふうに思いますので皆さんの意見を今日是非いただきたいと思います。

一枚ものの資料です、今後の進め方について。下表に今後の審議日程と活動と書きました。作業とか仕事とかあまり書きたくなかったので活動と書きました、審議会の仕事の内容です、そして行程です。延々とやるわけにいかないの、年度が変わったぐらいのところだけけりをつけられればいかなと当初から思っていました。一応この案の表には来年の5月に答申書を提出できればというふうに勝手にスケジュールを考えてきましたが、ここまでの工程を含めて案を示しました。それで要点は5つです、表を見ながらお聞きいただければと思います、まず

この審議会を前回どんなふうな形で今後の審議を進めて行ったらいいか少し投げかけはしましたが、もう一回私の方で具体的に審議会の進め方を1番のところで要点として書きました。この25名の委員です、その中に四つの作業部会を設けたいと思います、25人の委員を四等分するという訳ではないんですが、四つに分けてそれぞれ大事、どれが欠けても恐らく意味のある答申はできないだろうと私は思います、その四つをそれぞれ分担して作業をしてもらうようにしたいと思います。その四つとは小中学校の適正規模それから適正配置、関連する主要事項に関するものです。2番目のところに各部会、四つに分ける部会について説明がありますが、いずれにしる作業部会に分かれて集中的に審議したいと思ってます。集中的とはいえ月1のペースで今までこの審議会を開いてましたので、じゃあ次回までにとか次回こうだというふうに断続的にやっていくということに変わりはないのですがエネルギーを集中してっていうそういう意味合いが強いです。この集中審議を今日以降11月の審議会、12月の審議会と作業を進めて1月、実は審議会をこの年明けの月、1月に開けそうにないぞっていうことが事務局の方で少しご意見がありましたので空欄になっていますけども、とにかく年明け1月までには、この集中審議の結果を全体で確認できるように作業を進めていきたいと思っています。2番目のポイントです、各部会が委員5・6名、そのうち代表1名を据えて構成します。そして以下の内容について調査あるいは検討すると書きました。部会四つ、そのひとつは部会の1、適正規模に関するアンケート調査をやりたいと思います。アンケートに回答して頂く形の調査なんですが学校教員対象に実施したいと思っています、つまり学校の教職員の方、教師、先生が中野市の小中学校の適正規模についてどんなふうに考えていらっしゃるか、これは適正規模はどんなふうにも恐らく把握できるだろうと思うんですけども、この部会1のアンケート調査、先生を対象にした調査については、清水副会長さんの方でもう具体的に調査の考え方、方法については叩き台を用意していただいています、そのことを今日、この後ちょっとお話をさせていただければと思います。部会4つをまず説明させていただきます。それから先ほど冒頭私申し上げましたように、この適正規模や配置を考えるにあたって、学校サイドというか、先生方の意見だけで決められない、これは学校の教育の効果とか学校の運営のこと、深く本当に重要なんですけども、地域の住民の方ですとか学校に通わせている学校の保護者の方たちの考え方や意見、これを把握するというか配慮・考慮する必要が当然出てくるので、このアンケート調査については学校保護者を対象にしたものも併せてやりたいと思ってます。

実は、他の自治体の我々と同じような適正規模、配置の審議会でこうしたアンケートを取ってきた事例がございます。今日、お手元に事務局の方で用意していただいた北茨城市立小中学校の適正規模及び適正配置についてという答申が、そのものがホームページにアップされています。これを私もホームページ上でネット上で探し当てましたので、事務局の方で用意していただいたのですが、これひとつサンプル、見本です。比較的中野市と人口やその他の条件でまあ類似しているという事で、どんな審議会の活動をされてどんな答申が出されたのかというのをホームページで割と具体的に知ることができましたので参考にしてもらえればと思いますが、この北茨城市は保護者、それから一般住民、学校に子どもを今現在通わせてない住民の方

も含めた地域の方たちへのアンケート調査をやっています。ただ、その一方で学校教員を対象としたアンケート調査はやったという記録はありません。ですので私のこの案で部会1で学校教員を対象にしたアンケート調査をするってのはかなり我々としては独自の切り口だろうと思っております。部会の3は適正規模・適正配置という事で我々の諮問の内容が大きく2つに分かれます。その後の方、適正配置つまり学校の数、それから学校の数がもちろん想定されればどんな通学区を用意すればいいのか、それからどんな通学方法を考えなければいけないのか、結構付随して問題が出てきますので適正配置っていうのが適正規模から自動的に割り出されるわけではないにしても適正規模と関わらせて配置について考えていく。そしてその場合の主要事項というのが、例えばということで北茨城の答申の中にも他の自治体と同じように上がってくるんですけども、それらの言動や、できればシュミレーション、実際に中野市の小中の適正配置を我々が答申として具体的なイメージとして出す場合にシュミレーションしてみようじゃないかということも検討して欲しいと思います。その必要はないという意見も出てくるかもしれませんがそれはそれで部会に任せたいと思います。もうひとつ最後の部会は実は、今日、教育長さんからの意見、それからやり取りの中で浮上してまいりました、この審議会の中でも冒頭からこういう話は当然の事のように、非常に大事な事として出ましたが、適正規模や配置を答申したところでそれが独り歩きしてもらっては困る訳でそれを踏まえて何らかの学校の再編成、具体的には統廃合というのが必要になったとすると、当然のことながら統合された後、あるいは廃校になった後、この学校や地域をどう中野市として守り育てていくのか活用していくのかっていうことは、我々目をつぶる訳にはいかないわけですね、これがあつての適正規模、適正配置だろうと思います。つまり教育長さんもいみじくもおっしゃいましたけども子どもにとって望ましい教育環境又は学校運営を考えるうえで検討してくれっていうことですので、この統廃合をどんなふうに学校、地域はあるべきかっていう検討をぜひしたいと思います。以上の4部門に分けて集中審議を行うのでいかがでしょうかという提案です。あと、3, 4, 5は行程表の中にありましたように集中審議が終わってからの作業、まあかなり事務的かもしれませんが、ただ、審議すれば答申が自動的に出てくる訳じゃないのでこれをどう取りまとめるか、色々な意見を出したけども結局、こういう意見が出ました、でもこんなふうに答申します。というなんとなくへんてこりんな審議会も私経験したことがあるんですけども、そうはしたくない、当然してはいけないと思うので、年明け2月、3月、そして4月の温かくなるのに合わせてですね、各部会の調査や検討結果を取りまとめて、答申の基礎資料にしたいと思っています。これはかなり議論があるところだろうと思います、アンケート調査をしてもそれをどんなふうに解釈するかっていうので意見が分かれますんで、ここを十分じっくり全員でやりたいなと思ってます。そのうえでそこまでやれば、後は様式を整えて綺麗に表現して漏れなく市教委の方へ答申するってことなんですけれども、時間がかかります。古川委員がおっしゃっていたようにいつまでやるんだっていうのが感じるかもしれませんが、ここまでやれば、私は教育長、今日ここにいらっしやったので我々審議会のプロセスを無視できないと思います。これだけ意見を戦わせてしっかりとやっていくんですから、我々が答申した内容

を反故にすることはまずないし、それを十分に勘案していい形に小中学校の将来を見据えた教育委員会の作業が続いてきてくれるんじゃないかなと期待して年明け4月、5月まで一緒にやっていきたいなと思っています。

以上が今後の進め方の大枠ですけれども提案させていただきました。先ほどもちょっとアンケート調査のことで学校教員対象のアンケートって、他の自治体の審議会では恐らくやられていないんじゃないかなと、少なくとも調査した範囲ですけども、そういうこともありますので意見を色々この案を作るにあたって清水副会長さんの方からも貴重な意見をいただきましたので、特にこのアンケート調査のことを念頭に置かれてちょっと補足をいただければありがたいですが。

清水副会長；第1部会で学校の教職員対象にアンケートを取ったらどうかという事の提案がありました、そのことについてどんなアンケートをやるのか、何の目的でどうやってやるのかということなんですが、まず調査する視点は適正規模と教育の効果という視点をやりたい。教育効果というのは学力、学習活動、学習指導、それから学校運営ですね、人事とか、校務分掌、それから職員の研修とか、こういうことに係ってくる内容が教育効果というふうに出しました、これが学校の規模によってずいぶん変わってくるなど。今日、写真を見せていただいた中でもお感じになっているんじゃないかなと思います、そのことです。方法はどういうふうにするかという、各学校の教育指導の最先端から見つめてそこから内容を紡ぎだしてくる、そういう言葉を使っていいかわかりませんが、紡ぎだしてくる、というのが方法なんです。だから全教育課程についている視点に基づいて調査し、適正規模の感じを紡ぎだすということ、対象は教職員ということで具体的にはどういうふうにするかという学校には学年会があり教科会があり係会がありますから、そういうところで話題にしてやっていただければいいなと思います。そしてそのことを、最後にまとめてといいますか、教頭先生、校長先生の目を通していただいて1部こちらに提出していただくと、そんな事を考えてみました。それで具体的には学校の全教育課程というのは非常に膨大なんですけども、それでも要領よくやっていけばわかりますけども、そのところへ最先端のところへこう当たってみないと本当の中身が教育効果に係る内容っていうのは掴めないんじゃないかなと思います。そこで私は教科でいえば国語、社会、算数、数学、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、保健とこうありますよね、その教科によっても授業の内容が違いますから、そのところの人数等についても関係してきます。あと道徳とか外国語活動、総合的な学習、特別活動、清掃だとか学級活動に児童会、生徒会活動こういうのも皆はいつてきます。特色ある学校づくり、行事、遠足、旅行とかPTA活動。地域社会との関わりの中からも学校にご協力いただいています、そういうものに全部ふれて考えてみていただくと何かそのところに大事なものが見えてくるのではないかなと思いました。具体的にはこんなふうに書いてみました、国語科のところ、教科の立場から、国語の学習目標ってのがあるんですね、国語を適切に表現して正確に理解を、能力を育成し伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力や言語感覚を養い、国語を尊重する態度を育つ、こういうふうになっている訳ですがね、これが国語科の目標何ですけども、先生たちは精通しておいでだと思います。

これを人数にしてあててみた時により楽しくより学びやすく学習に活力があつて、授業する先生のやりがいがあつて、やり易さ等を生み出す学習集団の人数を現在の何人から何人まで、そして学級数はどうでしょう、同学年の学級数は現在は1学級だが単級でいいのか複数なのか、あるいは学級をもっと減らした方がいいのか、そういうような事をよくその内容から考えてやってみていく、そしてこれはどこか違う学校をイメージしてやるのではなく、自分の学校を過去から現在、未来に変わって大きく人数が変わっていくその資料を見て念頭に置きながらもっとも子ども達にとって適正な規模はどうだろうかということはこのところで書いてもらう。ちょっと大変ですけど、そして出来ればその理由を具体的に事例をあげて書いていただければ、事例というのは例えば道徳の時間におじいちゃんおばあちゃんのことと自分達の関わりについてというような家庭生活を見ている時に、うんと少ないとおじいちゃんおばあちゃんがないという、それはひとつの例ですけども、後世を伸ばすようなところはある程度人数がいた方がいいですし、あるいは知識をしっかりと身に付けさせるには少ない方がいいし、このようなところを学校の先生は直接子どもと担当してでもって、そここのところの具体はどうなんだということを書いていただくと、学力との学習形成、学力との関係が見えてくるのではないかと、そういうことです。アンケート調査というよりも具体的に説明して、聞き取り調査的な意味合いの方が気持ちとしては強いです。こんな事を考えてみました、以上です。

小島会長；ありがとうございます。具体的には部会の中でどんなアンケートの形式を取ってどんなふう集計分析するのかってことを考えていただこうと思うのですが、いずれにしてもこういう大枠しか今日、提案を準備してないのですが、まずはこれに対して委員の方たちの皆さんのご意見をいただいて、大枠でいいよ言っていただければ、出来るだけ早くにこの作業に入りたいと思いますので、部会のメンバーを決めたいと思つてはいるんですが。そうは言ってもそもそもこういう進め方でいいかっていうのを意見をいただきたい。

古川委員；一言だけ。アンケートというのとはほとんど反対している。ずーっと、9年間。アンケートは反対ということだ。世論誘導と、文章の作り方、都合のいいように作るわけだ、大失敗したのがいっぱいある。世論、アンケートはだめ。学校の先生にアンケートはもつてのほかだ、十分論議したんだ。

柴垣委員；私もアンケートは実は反対です。なぜかというところの今、アンケートという手法はダメというのは定説になっているんですね、理由が3つあってですね、ひとつはアンケートというのやり方及び設問の仕方によって、結果が大いに変わってくると、それではあまり客観性がない手法ということになっているんですね。2つ目はアンケートというのはどうしても反射的な意見が反映されやすいと、例えば一昨年、政府が原子力発電所についてのアンケートをやった時もアンケートはやらなかったんですね、熟議型アンケートといって人を集めて熟議させてうえでのアンケートという手法取ったらば、当初よりも大きく意見が変わってきたという経過があつて、アンケートはどうしても反射的な意見ばかりが反映されがちだと。3つ目はアンケートの結果にはだれも責任が取れないと、例えば消費税の値上げとかアンケートで決めるわけではなくてですね、やはりその結果に責任を持てる主体が議論して決めないと物事は前に進まないわけで

アンケートは以上いった手法と設問によって結果が大きく違ってきてしまう、それから反射的な意見がどうしても現れがちだと、3つ目はだれも責任が取れないということがあると。今回のこの審議会でやるという話は更に反対で、これまで積み重ねてきた議論がそのアンケートの前提として反映する方法がないんですね、この4つの意味で今度の答申の原案を作る大きな柱としてアンケートをもってくることには私は反対です。

小島会長；柴垣さんに4番目の根拠といわれたのは。

柴垣委員；例えば、これまでの話し合いの中で、例えば小規模校は目が届くけれども、大規模校は社交性が育ちにくいとかですね、あるいは地域との繋がりはどうかとか、これまで積み重ねてきた議論が前提にした意見が聞けない。これまで積み重ねてきた議論と別の意見を改めて別のチャンネルから持ってくるような流れになる訳で、その辺がこれまでの議論と脈絡が付けづらいたらうというふうに思うんです、それが4つ目です。

清水副会長；私、アンケートというより最初に言ったように聞き取りという気持ちの内容です。責任は授業している学校が責任がある、なんとなく感覚でマルをするという根拠のないマルなんかしたり書いたりするようなことではない、そのことについて今まで大事なことを話し合ってきましたが、それと全然違った問題が出てくるかというところではなく、その問題のさらに一步踏み込んだところで、その裏付けになるような事が、内容を期待しているんです、ですから統計を取ってこれがああだこうだという感じではないんですけどね。この辺はどうでしょうか。

古川委員；みっちりやったじゃないか、何でアンケートを取るんだ、波乱を起こすだけだ。

小島会長；あの、アンケートにしる聞き取りにしる、今回提案したのは、要は我々審議会以外の方たちの意見を何らかの形で反映したいという趣旨なんです。ですのでアンケートという形式自体を疑問視するというのであればもちろん、じゃあ他の形で意見を吸い上げないといけないのかなというふうに私は考えざるを得ないのですけれども。今の柴垣さんのご意見、古川さんのご意見の中には、我々だけで、つまりここの密室なんですけれども、この中だけの意見で答申を作り上げていっていいかどうか、ここを大事なことだと思うんですけれども。

柴垣委員；今の小島会長の趣旨はわかるので、趣旨を生かして先ほどの私の指摘も生かそうと思えば、何かその対話あるいは議論になるような周りの意見を吸い上げる場を持った方がより良いだろうと、さらに、四つ目の意見の繰り返しですが、これまでの議論を紹介しながらそれについてどうかという時にこれまでの議論と切り離れた話がまた突然持ってくるのではなくて、すり合わせができるような意見が集められたとすれば、出来ればより良いだろうと。

小島会長；対話集会のようなイメージは、今の意見で持ったのですが、そうではなくてアンケートの形式は取りますが、何の為のアンケートなのかというのはこの審議会の中での議論を集約、要約してこういうことを聞きたいんだ、もちろんそういうスタンスでやればいいのかと思ってます。

湯本委員；今のこのアンケートに対しては、私も柴垣さんや古川さんと同じ意見で、とんでもない意見が出るということを想定しますというと、これはあまりこちらからの設問の仕方もありますが、あまりいいことではないと思います。特にこの部会第1の適正規模の学校職員に対するアンケートということになりますと、たぶん2回か3回目の時かと思いますが日野小学校の先生かな、

いみじくもおっしゃったのは、今の赴任して子どもが例え5人でも7人でもこの子ども達をどういうふうに教育するかというのが私たちの使命ですということではっきりおっしゃいました。これはたぶん上原先生も似たような事でもって2, 3回おっしゃってますが、先生はこれ小規模なんですよ、小規模でもってそういう考えでもっている先生方へいかに子ども達のように今の指導しようとも受け手が平等ではない訳です。ですからこれは先生のアンケートというのは私は必要ないというふうにはっきり申し上げておきたいと思います。それから今のアンケートでございますがこちらからの本当にこれでどうかというのをするにしても私もあまり賛成はできません。

北原委員；先ほど会長が言われましたように、何らかの格好で、民意というか一般的な意見を吸い上げる方法をやらなきゃいかん。対話集会というのはたしかに政府も色々な格好で対話集会、アンケート、電話、色々なやり方をしますけれども、一番全部が満点というやり方はないわけです。例えば対話集会なんかは声の大きい方へみんな2, 3人の意見でこれが民意だとかいうふうに判断します、ですからアンケートがベストだとは思いませんけれども、少なくともベターであればやっぱりやるべきで、その一番大事なこういう格好でどういう、こういう方向へ行きたいと誘導するような質問の仕方ではなくてですねせつかくグループを作って皆でじゃあどういいうそのアンケートの問い合わせをしたらいいのかということと建設的な格好でみんなの意見を吸ってベストな検討の仕方をやれば、ベストではないけどもやっぱりこういうことは必要だ、ベターであるというふうに考えます。

市川(大)委員；私はPTAに対するアンケート調査をぜひ行って欲しいと思います。何故かといいますと今、PTAの意見を取り入れることは絶対に必要だと私は思います、ですのでアンケートというのは確かに色々手法とか設問とかあると思いますけども、このままこの密室の中で答申をして、例えば公表をしたとしたらPTAは皆さん根耳に水で何のことやら、突然そんな事を言われても困るというのがたぶん反応が起こると思うので、何かしら意見を前段として吸い上げておかないと我々代表者として来ていますけども、こちらに火の粉がかかる可能性もあるので、PTA会長さんの立場も考えても何かしらアンケートは取っていただきたいと思います。

下川委員；アンケートのようなものは必要だろうと思うのですが、学校というような集団でひとつの考えを練るという事は非常に難しいだろうなという、それは特に学級の数等の話になると、教職員というのはその規模でどういいう教育をしていくかってことを考えるので、どういいう規模が一番いいと思うかってことを考えたことはあまりないと思うんですね。前から話が出てますが小規模校でも大規模校でもその中でベストをやるという事を考えるという事をやって来ているので、やっぱりどれだけのいいだろうかというような事を考えると、これは本当に先生方の考え方、個人ごとで様々になってきますし、それを例えばこう考えながらとか、議論しながら学校で方向のある回答を出すということは難しいだろうな、というのをひとつは想像します。

小島会長；ありがとうございます。時間がもうなくなりました。会長の裁量で継続審議でよろしいですか。次回、この案について次回も継続して意見を伺いたいし、もうちょっと具体的に生産的な方向を見定める議論をしたいと思いますので是非、考えておいていただきたいと思います。そ

して、じゃあこの案でいけば5月が6月になるのかってことではないんですけども、この行程を含めて次回の審議会で意見を伺ってぜひ具体的なスケジュールを決めたいと思いますのでよろしく願いいたします。この点に関しては、単刀直入に申しますとぜひ、学校教員も保護者もその他の地域住民の方も含めた広い意見を我々の審議の内容を踏まえてお聞きしたいというのが趣旨です、それ以外の趣旨はありません。ぜひ次回いろんな意見をいただきたいと思っています。

小島会長；それでは次回のスケジュールを決めてからですね、次回の11月になりますが日程です。案としては当初は一番最後の週にと考えていたのですけれども、11月の22日の金曜日、3時からでいかがでしょうか、曜日が今日と実は違って木曜日ではないんですが、残念私がどうしても木曜日21日が都合が悪くて22日金曜日3時からを提案します。ご都合の悪い方はいらっしゃいますでしょうか、じゃあこれで事務局もよろしいですか、会場は隣の豊田公民館ということです。では第10回の審議会は11月22日金曜日3時から隣の公民館ということです。ありがとうございました。

清水副会長；ちょっと時間が過ぎましたが、遅れた分だけ前に進んだと思います。お詫びいたしますが、今日だいぶ内容の濃い討論ができたと思います。以上をもちまして審議会を閉会いたします。ご苦勞様でございました。

4 閉 会 (17:07)